



KIPPオンライン講座
対人関係と組織の心理学 第11講義

組織の病理 パート4 問題のあるリーダー (2)

講師 川畑直人

(教育学博士・臨床心理士・公認心理師・WAWI精神分析家)

オットー・カーンバーグ Otto F. Kernberg (1928 -)
米国の精神科医、精神分析家。
ウェイル・コーネル医科大学
教授。
境界性人格構造や自己愛病理に関する精神分析理論で有名。リーダー論、組織論にも取り組んでいる。

(Wikipedia参照)



問題のあるリーダー (2)

ノーと言えない
賞賛と愛を求める
全てを掌握しようとする

組織の病理が生み出される背景に、問題のあるリーダーの存在が考えられる。力動精神医学の権威、カーンバーグが指摘する問題のあるリーダーについて、今回はノーと言えない、賞賛と愛を求める、全てを掌握しようとするという3つのタイプについて説明する。

問題のあるリーダー1 ノーと言えないリーダー

- 自己愛性: 好かれたい。万人を喜ばせたい。
- 依存性・幼児性: みんなを満足させれば、自分も満足させてもらえる。
- 自己の攻撃性への恐怖。
- 反動形成・競争相手への反発から

(the leader who cannot say no)

なんでもOK

- 組織ではなかなか問題性が気づかれない。
- 周囲: フレンドリーだけど、結局どうしたらいいんだろう?



問題のあるリーダー2 賞賛と愛を求めるリーダー

(the leader who has to be admired and loved)

- 自己愛的
- 自分を賞賛する部下の声のみに耳を傾ける
- 一見素晴らしく見えることもあるが、真に能力のあるリーダーと勘違いしてはいけない。
- 周囲: たたえるだけでなく、リーダーよりできるところを見せてはいけない。
→ 組織は発展しない。



参考文献

- 1) 加藤正明他編 2001 精神医学事典 弘文堂
- 2) Samuel, Y. (2010) Organizational Pathology. NJ: Transaction Publishers.
- 3) Kets de Vries, M. F. R. & Miller, D. (1984) Neurotic Organizations. Jossey-Bass.
- 4) Kernberg, O. F. (1994) Leadership Style and Organizational Pranoigenesis. In Oldham & Bone ed. Paranoia; New Psychoanalytic Perspective. International University Press. Pp.61-79
- 5) フロム, E. 1941 日高六郎訳 1951 自由からの逃走 東京創元社

問題のあるリーダー3 すべてを掌握しようとするリーダー

(the leader who has to be in total control)

- 古典的な権威主義的人物
- 課題の達成よりも、自分が力を行使して、周囲を動かすことが生きがい。
- 自己愛性+パラノイド性(無能に見られたくない+うっかりするとだまされるぞ)
- 周囲: うつと自己非難
- 混沌を恐れる強迫性→サディスティックな力への渴望
- 潜在的強迫性→不決断、先延ばし

